



アート・アマネ

まるで絵画のような器たちに出会いました！国富町で作陶されている「アート・アマネ」。アトリエを構え、静かな自然の中で生まれる作品は、どれも「光」と「やさしさ」を感じさせてくれるものばかり。陶器でありながら、まるで水彩画を閉じ込めたようなやわらかな色彩が印象的で、一点一点に詩のような余韻があります。

器の表面には、にじむように広がる花や自然のモチーフが描かれ、ピンクや黄色、淡いブルーなどが混ざり合い、見る角度や光によって表情を変えてくれます。金彩やガラス質の光沢がアクセントとして施されており、華やかでありながら上品。日常のひとつを、少し特別な時間に変えてくれるような作品たちです。定番の湯呑やカップだけでなく、花器や角皿、そしてギフト用のプレートセットなど、用途に合わせた多彩なラインナップも魅力。手に取るたび、作り手のやさしい気持ちが伝わってきます。



自然豊かな国富町のアトリエでは、制作だけでなく作品展示や販売も行っているそう。器だけでなく、空間そのものが癒しになるような場所です。「アート・アマネ」の器は、飾っても美しく、例えばお心に残るそんなやさしさに包まれた器たちです♡ ぜひ、あなたの暮らしの中にも取り入れてみませんか？

☎0985-78-1117
Instagram ID / @gallery_art_amane
宮崎県東諸県郡国富町深年3943

杉尾信康



青島で毎年行われる窯元祭のみで展示・販売を行う「杉尾信康」さんの作品。杉尾さんの作品は、器をキャンバスにして抽象絵を描いたようなユニークなものばかり。芸術的でありながら、気取らないあたたかみがあるところが魅力的です。版画ではなく、器だからこそできる表現を常に探求しつづける杉尾さんの作品を、この機会に触れてみてはいかがでしょうか？



数ある作品の中でご紹介させていただいたものがこちら。しぶきが立ちのぼる岩場。砂浜に押し寄せる波。そんな何気ない海の情景をそのまま器に写したかのような作品。淡くにじむ色彩は、岩に砕ける泡のきらめきを思わせ、器の底にはゆったりと寄せて返す波のリズムが感じられます。1枚の器で、それらを一つに

壁に掛けるタイプの花器。お花を生けなくても絵画のように飾ることもできるほか、1つの食器として利用することもできます。部分的にガラス釉を使用しているため、光の反射で見え方が変わる表情豊かな作品です。

Instagram ID / @sugionobuyasu
お問合せ・ご連絡はインスタグラムDMでお願いいたします。



銀色少年とアカイふらすこ



会場を歩いていると、ふと足をとめてしまうブースが……。色とりどりの動物たちが、器の中からこちらを見つめています。作者は、綾町で作陶されている中島博之さん。平成18年に開窯し、照葉窯での修業を経て、現在は「幅広い世代に喜んでいただける器づくり」をモットーに、ひとつひとつ丁寧に制作されています。

目を引くのは、やっぱり器に描かれた愛らしいイラストたち。うさぎ、パンダ、トラ、ぞう、へびなど……。どの子も表情豊かで、同じ絵はないため思わず「どれにしようかな」と迷ってしまうほどです。このイラストには「化粧土（けしうど）」という技法が使われています。焼く前の器に化粧土を使って描くことで、POPな雰囲気を出しつつも、器そのものの土の質感や、焼き物らしい渋みもしっかりと残しているのが中島さんの魅力。かわいさと落ち着いた感じが同居する、不思議



カップの側面には「today is happy」といった、ささやかだけれど心に残る言葉が添えられているものも。日々の暮らしの中に、ちょっとした笑顔と癒しを届けてくれる器たち——それが「銀色少年とアカイふらすこ」の世界です。



中島さんは11月に開催される「綾工芸まつり」にも出展予定とのこと。今回手に取れなかった方も、次の機会にぜひ出会ってみてください。

☎090-9586-2864
Instagram ID / @red55flask
宮崎県東諸県郡綾町大字北俣1109-2

宮崎の“うつわ”に出会う旅 県内の窯元をめぐる 器のぶらり旅

取材協力 / 第5回 みやぎぎの窯元祭 in 青島

宮崎には、土のぬくもりを大切にしながら、日々うつわづくりに向き合っている窯元さんがたくさんあります。今回は、個性あふれる5つの窯元さんを訪ね、うつわに込められた想いやこだわりを取材してきました。暮らしの中でそっと寄り添ってくれるようなやさしい器や、目にした瞬間に心がときめくような作品たちを紹介します！

さらに今回、取材にご協力いただいた5つの窯元から、読者プレゼントをいただきました！ 誌面を読んで気になった窯元があれば、ぜひチェックして、素敵な器が当たるプレゼントにご応募ください！

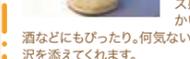
プレゼント

【応募方法】

希望商品の番号をP15のアンケートガキもしくは、HPの応募フォームから6月20日(当日消印有効)までにお送りください。
※プレゼントの応募はお1人様1枚限り有効とさせていただきます。

【受取方法】

📄 きりしまフォーラムまで取りに来る
🏠 希望の窯元まで直接取りに行く



1 生楽陶苑
花文様がバツと目を引く、手に取りたくなるような平皿。持ちやすさや収納のしやすさにも配慮されているので使い勝手抜群！ 普段使いからおもてなしまで幅広く活躍してくれる器です。



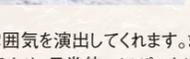
2 檜窯
落ち着いた三色の釉薬が織りなすグラデーションが美しい湯呑み。手に取りの良さ、サイズ感と適度な軽さで、温かいお茶はもちろん、冷たいお水を添えてくれます。



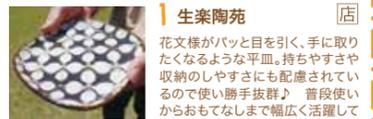
3 アート・アマネ
まるで春の景色を切り取ったような、ふんわりとした色彩が印象的なカップ&ソーサー。お茶の時間がちょっぴり特別になる。とっておきのひと組。贈り物にも、自分へのほづびにもおすすめです！



4 杉尾信康
手のひらにそっと馴染む、洗練された行まいの小鉢。職人の感性から生まれた唯一無二のフォルムは、工芸という域を超えて一つの芸術として存在感を放ちます。



5 銀色少年と
風船を持ったうさぎのイラストがかわいらしい、子ども用の小さな器。ふちにしっかりと「返し」がついているので、お手さまでもすくいやすく、はじめての器にもぴったりです。



生楽陶苑



宮崎県の山間地方にある三股町長田の地に工房を構える「生楽陶苑」。2代目の園田さんが手がける器には、イギリス発祥の陶芸技法「スリップウェア」が取り入れられています。「スリップウェア」とは、泥状に似た粘土を「いっちゃん」と呼ばれるスポイトのような道具で塗付けする技法。一つひとつ手作業で文様を描くため同じ文様でもそれぞれに微妙な違いがある



様々な文様の器がありましたが、なかでも花文様の器は華やかさと繊細さを兼ね備えており、人目を惹く存在感がありました。特に人気の高いシリーズだそうで、多くの方に選ばれている



園田さんは、自然との調和を大切にしたいから器づくりに使う素材にもこだわりを持っています。スリップウェア最大の特徴である表面の化粧土には、宮崎で採れる原土を使用しており、思いのつまった器は使うほどに愛着が深まりますね。

☎0986-54-1320
宮崎県北諸県郡三股町大字長田6460-1
HP / https://www.kirakutouen.com
Instagram ID / @kirakupottery

檜窯



深みのある暗緑色が特徴的な織部（おりべ）は、銅に反応して緑色に発色する釉薬を施した陶器。織部は赤色がよく映え、刺身やトマトなどの食材をより美味しく盛り付けることができます。

延岡市行藤山（むかばきやま）の麓に工房を構える「檜窯」。檜の森の中に工房があることから、この名前が



色が出にくいとされる「辰砂釉」。独特の風合いと美しい発色で、牛血紅、火焰青（かえんせい）、桃花片の3種類があり、焼き方や環境で色合いが変化することから、陶芸家や愛好家から人気の作品の一つです。

織部の他にも、三彩・赤い辰砂を用いた作陶も行っています。重厚感と温かみのある色合いから、力強い存在感を感じさせます。



普段使いできるカップやお皿以外にも、猫のオブジェや風鈴も制作されていました！ 当日は風が強かったため、風鈴の澄んだ音色が心地よく鳴っていました！

☎0982-39-0661
Instagram ID / @hinokikiln
宮崎県延岡市行藤町633-14